

IV-270 シルバーパスを考慮した高齢者のバス利用特性

○東京都立大学 学生員 太田 政彦
東京都立大学 正 員 山川 仁
東京都立大学 正 員 秋山 哲男

1. 研究の背景と目的

高齢者のモビリティ（移動性）は加齢に従い減少するが、その理由として身体的制約と経済的制約が大きな影響要因と考えられる。

本研究においては、経済的制約を緩和するシルバーパスに着目し、身体的制約も含めた高齢者のバス利用特性を明らかにすることを目的として、主な内容は以下の3点とした。

- ①高齢者の外出全般についての整理
- ②シルバーパスの効果の考察
- ③身体的制約（ハンディキャップ）別外出特性

2. 調査方法の概要

大量輸送交通機関のうち、バスを主要な交通手段とする東京都八王子市北西の郊外部に住む高齢者に対しアンケート調査を行い、母集団2,898人に対して1689票配布し、39.1%（1,133票）の回収率を得た。

3. 高齢者の外出全般

(1)外出頻度

年齢別にみた1ヵ月における平均外出日数は、74歳までの14日から、75歳以上の12日へと加齢に従い減少傾向にある。目的別には加齢に伴い散歩が増加し、買い物が増加傾向にある。（図-1）

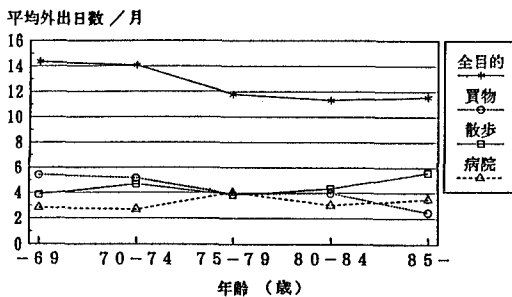


図-1 年齢別平均外出日数

(2)利用交通手段

年齢別に主要な交通手段利用率を見てみると、自分で運転する車の利用率は加齢に伴い減少し、乗せてもらう車の利用率は加齢に伴い増加する。バス利用率は加齢に伴い減少するが、70歳で取得可能になるシルバーパスによって一時上昇し、その後減少している。これより、シルバーパスがバスの利用率を左右する大きな要因であることがわかる。（図-2）

<3のまとめ>

(1)、(2)より、シルバーパスは外出頻度への影響は少ないが、バス利用率を増加させていることが推定できる。

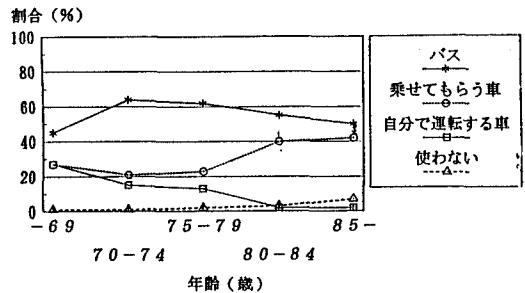


図-2 年齢別利用交通手段

4. バス利用意識からの効果の考察

バス利用率は、シルバーパスを取得した時点で増加している。しかし、それが「シルバーパスによる変化である」とは言いきれない。そこで、バスを主要な交通手段とする人の中で、「シルバーパスによって外出が増えた」という人を調べてみると、全体として2割近くの該当者がみられた。故に、「シルバーパスの効果がある」と考えられる。（図-3）

なお、図では実線が全体のバス利用率、点線がシルバーパスの影響を受けない人のバス利用率である。2線の差がバスの効果と考えられる。

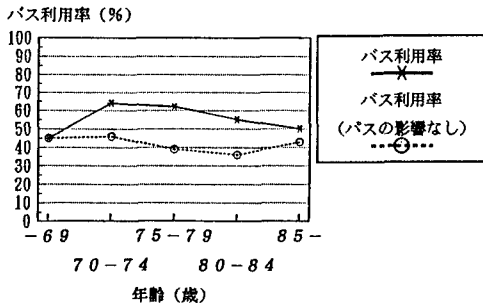


図-3 バス利用率の比較

5. ハンディキャップ別外出特性

本研究では、「小走りができない」という人をハンディキャップありと定義し、ハンディキャップ別の外出特性についてみることにする。

(1) ハンディキャップ別利用交通手段

ハンディキャップの無い人の利用交通手段について見てみると、バス利用率はシルバーバスを取得した時点で増加し、以後加齢に伴っても減少せず、乗せてもらう車の利用率はシルバーバスを取得した時点で減少し、以後加齢に伴い微増する。

ハンディキャップのある人の利用交通手段ではバスの利用率はシルバーバスによって少し増加するが、以後加齢に伴い減少する。また乗せてもらう車の利用率についてはバスの影響はあまりなく加齢に伴い増加している。

ハンディキャップのある人の割合は69歳までの1割から85歳以上の4割へと単調増加することを考慮にいれても、「加齢による利用交通手段の変化は、ハンディキャップのある人の影響である」ということがわかる。(図-4)

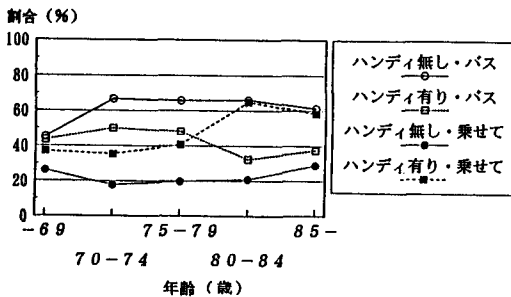


図-4 ハンディキャップ別利用交通手段

(2) ハンディキャップ別バスへの不満指摘率

バスへの不満指摘率は、全体的には「バス停」「利便性」「乗降口のステップの高さ」「座席に座れない」という点において高い。そして、ハンディキャップが重いほど、バスの乗降口のステップの段差をはじめとして不満指摘率は高くなる。

バスへの不満指摘から、バス停において風雨を避けるなど全天候型の対策や、特にハンディキャップ者への対策として車両の乗降口のステップを改善することなどが必要と思われる。(図-5)

なお、凡例は「小走りができますか?」という問いに対する回答別である。

<5のまとめ>

(1)、(2)より、ハンディキャップが重いほどバスへの不満指摘率は高くなり、結果としてバスの利用率は下がるものと考えられる。

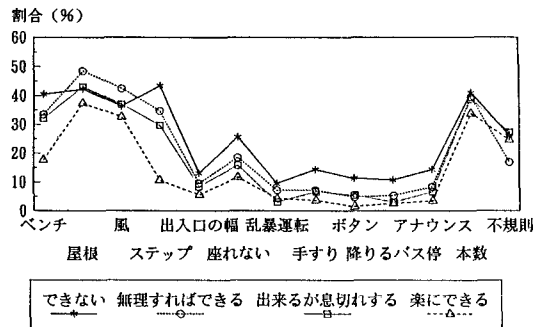


図-5 ハンディ別バスへの不満指摘率

6. 結論

- ① シルバーバスという経済的対策は、高齢者に対して「バス」という公共交通の利用を促進させる、という意味で有効である。
- ② ハンディキャップがあるということは、バス利用の際に大きな制約となる。

[参考文献]

- 太田勝敏:「高齢者に対する交通政策の現状とアプローチ」: 国際交通安全学会誌Vol. 9 No. 5 (昭和58年12月)
- 秋山哲男:「高齢者のハンディキャップと外出特性に関する考察」: 日本都市計画学術研究論文集No. 22 (昭和62年)